**互いに愛し合えますか？ 2016 04 24**

**ヨハネ13:31-35 安達均牧師**

主の恵みと平安が豊かにそそがれますように！

小学校一年生のときだった。いまだに、覚えている自分の不思議な体験がある。クラスに２０人くらいの男子生徒と女子生徒がいた。私の場合は、いろんな子供たちと、遊ぶのは平気だと思っていた。

しかし、ひとりだけ、どうしても、彼とは、いっしょに遊ぼうという気分にはなれなかった男の子がいた。しかし、びっくりしたことに、その彼がお母さんに連れられて、遊びに来てしまった。母が玄関に出て、「ひとし、とみたくん（偽名）が遊びにきたわよ。」と言う。

ちょうど祖母が家に来ていた。信仰心に満ちた祖母には、内心一番遊びたくないと思っていた、本心を打ち明けた。　祖母は、それはいけない考えですなどとは一切言うことなく、にこにこしながらやさしく「いっしょに遊んでいらっしゃい。」と言う。　結局、外でいっしょに遊ぶことができた。

さて、今日の聖書の箇所に入っていきたい。ユダが出ていったあと、「11人の弟子たちに「新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。」と語られた。ユダは後に、お金を受け取ることと引き換えに、イエスをローマの兵士たちに、渡してしまうというイエスへの裏切り行為をしてしまう弟子だ。

さらに、ほかの弟子たちも、イエスが十字架にかけらてしまう過程で、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げていってしまう。また、一番弟子のペトロは、他の人々から「イエスといっしょに居た人だ。」といわれると「そんな人は知らない」と3回も否定する。

イエスが神だなんて、許されないこととする、ユダヤ教のリーダーたち。暴行を受けられっぱなしで、なんら抵抗をしないイエスに対して、民衆までも「イエスを死刑にしろ」と叫ぶ。　イエスは十字架上で亡くなり、葬られる。

しかし、イエスは日曜に復活される。　復活したイエスは、弟子たちを一切責めることなく、赦し、聖霊を与える。　また、十字架につけた者たちについても、「この人たちは、なにをしているかがわかっていないのです。お赦しください。」といわれていた。

また、ユダにさえ、「自分のしようと思っていたことをするように。」といわれていた。　終始一貫して、イエスが痛み、苦しみ、十字架にて殺される方向に仕掛けた者すら、赦しておられた。

それは、イエスがすべての人々の罪を赦す。　自分を苦しみに追い込む、本来だったら、大嫌いで、憎み通すような、人に対しても、イエスの一貫した愛がある。救い主の愛とは、もっとも愛し得ないよう人を愛すること。

イエスは、十字架にかけらる前に後の教会のリーダたちとなる弟子たちに語っておられた、新しい掟、「互いに愛し合いなさい。互いに愛し合えば、皆が、私の弟子であることを知るようになる。」ということの深い意味を考えたい。　弟子たちは、それまでは、だれが弟子たちのなかで一番偉いかをあらそっていたような者たちである。

現代のキリスト教会に集まるものにも、教会のリーダになろうとする人々の間で、そのような傾向があることは否めない。イエスの体である教会がめちゃくちゃになる、ということも起こる。そのような者たちさえも、イエスが徹底的に赦し、愛し続けておられることを覚えたい。

旧約聖書に書いてあった掟、一番大切な掟は、「隣人を愛する」ということだった。　しかし、新しい掟は、「互いに愛し合う。」こと。　それは、キリスト者が、どんなに自分を裏切るもの、いやな思いを起こさせるものでも、愛する、そういうことで終わらず、自分を裏切るものからも愛される存在になること。

「私は神様じゃないからそんなことできません。」という方おられるかもしれない。　本当にそうだろか。私は、キリスト者は、それが可能なのだと思う。　それは、キリスト者になるということは、自分が神の道具になること。　ただ、十字架の死と復活に表された、無償の愛、無条件の愛を、受け取るだけ。

聖パウロは、あなたがたは、神の神殿です。　ということをよく言っている。今年の2016年のテーマ聖句でも、「あなたがたは、神の住まいとなる。」　言い換えれば、キリストを信仰するものは、神の愛を受け取り、神の愛が宿ってくださる存在になる。　そして、互いに愛しあうことを実践する。　結果として、それを見たものにも、神の愛を受け取ることが可能になっていく。　アーメン。